

考え・議論する道徳を基にした授業の工夫 ～問題意識をもち、自分との関わりで考える展開～

提案者 栃教協教研推進委員会 教員部

那須塩原市立共英小学校 教諭 湯本佐智恵

壬生町立壬生東小学校 教諭 小林 梨絵

那須塩原市立東原小学校 教諭 高山 千春

I 研究主題設定の理由

栃教協教研推進委員会教員部では、平成29年度より3カ年計画で、道徳の評価について研究を進めてきた。評価の手段としての評価シートの活用方法や評価の観点の精選といった研究を通して、現在の評価シートの形を完成させ、日々の指導と評価に生かしてきた。

次に、令和2年度より「登場人物への自我関与」をさせやすい教材を選び、効果的な指導法について研究を進めてきた。その最中に新型コロナウイルス感染症流行により、タブレットを使った指導法の開発が急務とされた。そこで、授業にタブレットを用いた活動を取り入れることで登場人物への自我関与をしやすいことができないか、また、道徳的価値の理解を深め道徳的实践力を高めることができないかと考え、研究を進めた成果として、幅広い事例を集めることができた。

一昨年度からは、「考え、議論する道徳」の実践が叫ばれて数年が過ぎ、多様な実践が積み重ねられたところで、それらを参考にしながら、改めて「考え、議論する道徳」の授業づくりを追求することにした。

II 研究主題について

昨年度は、平成31年と令和2年に栃木県総合教育センターから発刊された【「考え、議論する道徳」の授業づくり】に示されている四つの学習に関する指導の中で「問題意識をもつ」と、「自分との関わりで考える」に着目し実践した。「問題意識をもつ」とは、主体的な学びの実現のために、主題や教材の内容に興味や関心をもたせるだけでなく、本時の主題に対する問題意識をもたせられるような授業を展開することである。「自分との関わりで考える」とは、主題に対する問題を自分との関わりとして、これまでの自分の経験やその時の感じ方考え方と照らし合わせながら、深く考えることができるようにすることである。この二つを展開の軸として、どのように授業を構成すれば、子供達が「考え、議論する道徳」の授業にしていけるのか研究してきた。

今年度は、「問題意識をもつ」、「自分との関わりで考える」の授業実践の成果と課題を踏まえたうえで、「多面的・多角的に考える」、「自己の生き方について考えを深める」ために、どのような授業を展開したら「考え、議論する道徳」の授業になるか研究していく。

Ⅲ 研究の仮説

子供が主体的に道德性を養っていくために、道德科の授業では、子供の実態に合った学習指導過程や学習方法を工夫改善しながら「考え、議論する道德」の授業を行っていくことが求められる。そこで、栃木県総合教育センターから示された「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の四つの学習活動について指導の工夫改善を行いながら日々の授業を展開することで、「考え、議論する道德」の授業への質的変換を図ることができるのではないかと仮説を立てた。

Ⅳ 研究の内容

教研教員部では、これまでの研究を踏まえて「考え、議論する道德」の授業づくりを目指す中で、上記の四つの学習課題の指導について研究、実践に取り組んできた。中でも昨年度は「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」の2点に重点を置き、

- ① アンケートの結果を活用する場面を工夫する。
- ② 教材の提示の仕方を工夫する。
- ③ 発問を工夫する。
- ④ 児童の意見の取り上げ方を工夫する。

の4点を取り入れた授業を教研推進部員の各学校で実践し、子供たちの道德性を養いながら道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきたいと考えた。

Ⅴ 成果と課題

成果については、事前アンケートを行うことで、自分事（自分との関わり）として考えられた児童が多かったこと、また、終末でアンケートに戻って振り返りを行うことで、以前の自分と比べて考えを深めることにつながったことが挙げられる。また、アンケートの結果を元にクラスに実態を把握して発問を組み立てることができ、教師の指導項目を明確にして授業に取り組むことができた。

課題としては、アンケートを導入以外の場面（展開）の中でも効果的に生かし方、多様な価値観を生かすための、本音やつぶやきが言えるクラスの雰囲気づくりが大切であること、思考を深めるための板書の工夫などが実践の中から感じられた。

本年度は「多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」の2点に重点を置いた授業をこれから実践し、研究を進めていく。

自己の生き方を考える道德教育の充実に向けて

—後段へのつながりを意識した授業展開と実践で生かせる別葉の作成・活用—

提案者 真岡市立真岡西小学校 小池 有貴

1 はじめに

いじめ問題への対応の充実を期待され、平成27年3月に「特別の教科 道德」となったが、他教科に比べて軽んじられたり、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われたりするなど、未だに多くの課題が残っている現状である。学習指導要領にも記載されているとおり、児童がいじめ問題などの困難な問題に主体的に対処することのできる力を育成していく上では、道德教育が大きな役割を果たすと期待されており、道德教育の要として道德科の時間が有効に機能することは不可欠である。

そのような中で、自身の悩みでもあった、道德科の授業における「教材」と「児童自身」との乖離や別葉の活用に焦点を当てながら、道德教育の充実について理解を深めたいと考え、研究を行った。

2 提案内容

(1) 道德を教えるということ

道德は、本来個人的な問題である。人間関係を前提としつつも、根本的には、個人の善悪の判断及び実践行為の問題である。しかし、学校は、道德教育を学ぶ上で①体系的、理論的に学ぶ場 ②自己内対話と他者対話としての意義がある。

また、道德科の授業を行う教師は、道德的価値の正しい「答え」を教えるわけではなく、児童が道德的価値を理解できるように「積極的な働き掛けの工夫」を行うことが大切である。

(2) 展開後段の捉え方

後段は、大きく「展開前段での話し合いを生活全体に広げたりつなげたりする段階」「資料の特殊場面から離れて、自分自身のことを見つめる段階」と捉えられる。道德科において後段は大切な時間であり、それを充実させるためには前段とのつながりを無視することはできない。

ただし、後段の必要性については様々な説があり、必ずしも設定しなければならないものとは言い切れない。しかし、後段を設定しない場合であっても、自己との関わりで道德的価値について考えることは道德科において欠かすことのできないものであることを十分に理解し、授業に組み込んでいかなければならないと考える。

（３）展開後段へつなげるために

後段を充実させるためには、前段とのつながりが重要となる。後段まで道徳的価値のずれがなく、前段から後段へのつながりをスムーズに行うためには、①児童の実態に合わせたねらいの設定 ②道徳的価値について考えを深める中心発問 ③前段の深まりを後段につなぐ発問の仕方が大切である。また、いずれの場合も、教師が、内容項目に含まれる道徳的価値の理解を深めて焦点化を行うことが重要であると考ええる。

（４）道徳教育推進教師の役割

道徳教育を充実させる上で、道徳教育推進教師の役割は欠かせないものである。主な仕事として、次の８つのことが挙げられる。

- ①道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ②全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ③道徳科の時間の充実と指導体制に関すること
- ④道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ⑤道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ⑥授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ⑦道徳教育の研修の充実に関すること
- ⑧道徳教育における評価に関すること

（５）別葉の作成と活用

別葉とは、道徳教育全体計画をより具体的で活用しやすいものにするために、指導時期や活動等の関連を示したものである。活用を目的に作成されたものであるという別葉の意義を考えると、年間を通して具体的な活用をしていくことが重要であると言える。そこで、活用しやすい別葉の形式として、「道徳科を要に、関連の深い教科等を前後に配置し、ユニットを組んでいく形式」を提案したい。

３ 成果と今後の課題

道徳科の授業における「教材」と「児童自身」との乖離については、後段の在り方が大きく関わっているとして研究を進めた。その中で、充実した後段を行うためには、ねらいの設定や前段の進め方が大切であることが分かった。特に、ねらいの設定については、教師自身が道徳的価値の理解を深めることが重要であり、ねらいとする道徳的価値の確実な積み重ねが大切であると分かった。

また、別葉についての研究では、参考資料が少なく難航したが、活用しやすい別葉の形式を考え、提案することができた。作成して終わりではない「実践で生かせる別葉」にしたいために、今回の研究を基にして、他校にも意見を伺いながら、より活用しやすい別葉の形式を考えていきたい。

道德教育推進研修で学んだこと

提案者 壬生町立藤井小学校 村山 寛子

1 はじめに

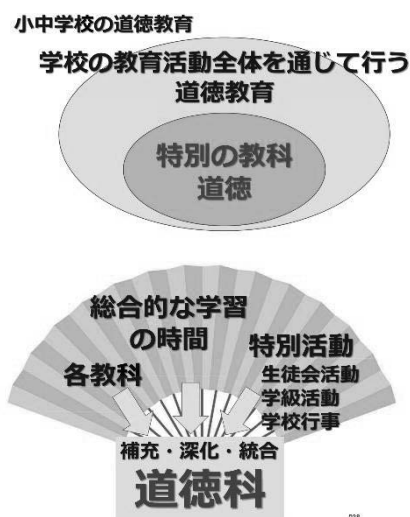
昭和33年、道德教育の徹底を図るため、小学校、中学校において週1単位時間の「道德の時間」を新設した。その後、全国でいじめ問題が深刻化し、道德教育の量的課題と質的課題が挙げられた。平成26年に「特別の教科 道德」として位置付け、検定教科書の導入、一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価、多様で効果的な道德教育の指導法へと改善するなどのことが示された。そして、平成30年から小学校にて全面実施となる。

2 伝達内容について

昨年11月、NITS独立行政法人教職員支援機構の道德教育推進研修を受講した。3日間の研修で学んだ内容の一部を紹介する。現行の学習指導要領が実施されてから8年目となるが、現場の先生からは、自分が学生の時に学んだ道德の授業のイメージしかなく、教科化された道德の授業をどのように展開してよいのか分からないとの声があった。そのため、「多様で効果的な道德教育の指導法とはどういうものなのか」を中心に伝達させていただく。

伝達内容1 道德教育について

1. 道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする。
2. 道德教育は、特別の教科である道德を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行うこと。



伝達内容2 「特別の教科 道德」について

1. 道德科は、各活動における道德教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。
2. 道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

伝達内容3 「考え、議論する道徳」について

1. 平成 26 年の中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」
対話や討論など言語活動を重視した指導、道徳的習慣や道徳行為に関する指導、問題解決的な学習、小・中学校の違いを踏まえた指導など、多様で効果的な指導へと改善する。
2. 答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る。

伝達内容4 「考え、議論する道徳」の授業について

1. 自己を見つめる

自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める。



道徳的価値の理解・自己理解

2. 多面的・多角的に考える

- ・多様な感じ方や考え方に接する。
- ・多様な価値観の存在を前提に考える。
- ・他者と対話したり協働したりしながら考える。



価値理解・人間理解・他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し表現できる力

3. 自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自己の生き方についての考えを深めたり自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを想起したりするなど、自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要である。

例えば…

- ・自分自身の問題として受け止められるようにする。
- ・身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。
- ・これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

段階	学習の目的	主な学習活動
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・自分自身との関わりで考える。 ・多面的・多角的に考える。 ・自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。

003

3 自校の取組

- ・道徳コーナーの設置 「自己の生き方について考えを深める」場面での児童の考え
- ・板書データ、自作プリント等を共有フォルダに保存
- ・挿絵の保管
- ・授業公開